



07

こちらはフロント側のフードダンパー。フロントはこのように縦に装着されていて、930よりはかなり作業が楽。こちらも左右2本が標準です。



05

これが交換する新品のダンパー。部品代があまり高額でないのに抜けたままになっているクルマが多いのは、交換してもすぐに抜けてしまうためかな？



03

前回に引き続き、今回の作業もベテランの横田メカニックに担当してくださることになりました。よろしくお願いします。



01

今回の作業も引き続いてこちら、ナガセ自動車さんをお願いしました。工場の中には相変わらず手強そうな輸入車が沢山入庫していました。



08

目視じゃ抜けているかどうかは全然分かりません。抜けているはずのダンパーでも、手で締めてみるとかなり固いです。



06

930までの911の場合、新車時にリアウイングを選ばなかったクルマは最初から片側しかありませんが、964以降では標準で左右2本となります。



04

エアコンの修理の前に、作業しやすいように、まずは前後のフードダンパーの交換をすることになりました。リア側はこのように水平に入ってます。



02

この取材の当日はかなり暑い日でした。エアコンが全然効かなくなった上に、ひどい渋滞にはまってしまったため、小澤社長はヘロヘロになって登場。

ポルシェ964カブリオレMT車 Vol.3

新車に戻すぞ How Much!

文●半谷範一、エフロード編集部 撮影●森口信之

取材協力●スピードジャパン (tel:03-3555-8865 <http://www.speedjapan.co.jp/>)

ナガセ自動車 (tel:052-361-6270 <http://www.nagase-jidosya.co.jp/>)

エアコンが突然死にました オイル消費は問題ありません

スターターが突然死するという緊急事態でいきなり初期化以前の問題の修理ということになってしまったこの964、今月からいよいよ初期化の作業が開始できるか？と思っていたのですが、取材直前になってスピードジャパンの小澤社長から連絡が！「すみません、今度はエアコンが死にました」

964のリフレッシュ企画をやったときには、程度が良過ぎてネタに詰まっていたのですが、今回の964は最初から飛ばしてくれるなあ。でもエフロードとしては、964オーナーやその予備軍の皆様に役に立つ情報が提供できるわけで、大変喜ばしいことだと思っております（負け惜しみ）。

さっそくエアコンをチェックしてみたところ、案の定ガスがまったくありませんでした。どこから漏れているわけですが、まあこの年代のクルマだったら、別にポルシェに限らず珍しいことじゃありません。

でもここで大きな問題となってくるのが、「どこから漏れているか？」でしょう。同じガス漏れでも、漏れている箇所によって、修理代が全然違ってくるからです。普通に外側からアクセスできる場所なら作業的にはそれほど困難ではありませんが、エバポレーターからのガス漏れだったりしたら最悪、部品代はもうろんのこと、作業的にもかなり面倒で、工賃もかなり高額になってしまいます。心配だなあ。

このガス漏れっていうやつは、中々部位を特定できないのも大きな難点です。次号では恐らくエアコンの修理作業についてご報告させていただきますことになるのでお楽しみに。



これはマネージャーの服部さんのクルマ。これが正常な状態です。過熱時にエンジンを停止すると、このヒーターブローが自動的に回って排熱します。



エアコンの方は結果が分かるまである程度の時間が掛かるので今日の作業はオシマイ。次は心配なオイル漏れの状況を確認することになりました。



ガス漏れを調べるにしてもガスが全然入っていないからどこから漏れているのか分からないので、とりあえずガスを入れてみることにしました。



はい完成。もちろんこれが正常な状態ですけど、実際にはダンパーを交換しないで「つかえ棒」で支えているクルマが多いなあ(笑)。



なぜかデスピのベルト切れ対策用のホースが装着されていませんでした。以前にデスピを新品に交換しているので、そのときに忘れたのかな？



ケースの合わせ目からヘッド回り等々、オイルが漏れそうな箇所からはひと通り漏れているとう状況です。でも実際に漏れている量はどのくらいかな？



これがガス漏れの箇所を特定するための蛍光剤。これをエアコンの回路の中に入れば、漏れてい箇所が紫外線のライトで光るという寸法です。



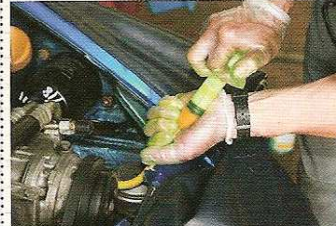
エアコン、全然効きません。さすがの小澤社長も辛そうです。記録簿を見ると、やはり過去に頻繁にガスを入れていることが分かります。



これも服部マネージャーのクルマ。ホースがブローのダクトにつながっているのが分かりますか？リアガーニッシュからもホースが伸びています。



964の潤滑系はドライサンプなので、エンジンオイルを十分に温めてから、エンジンをアイドリングさせた状態で点検します。



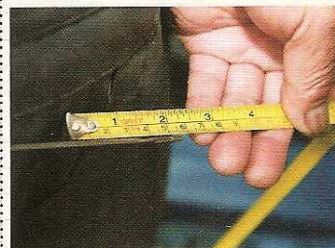
エアコンの回路に蛍光剤を入れているところ。でもこの蛍光剤、知らない間にあちこちに付着してしまうので、結構取り扱いが面倒です。



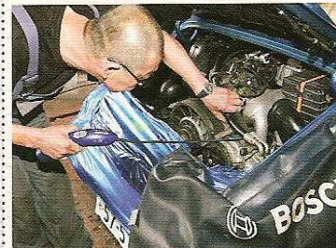
点検してみたら、ガスの圧がまったくありませんでした。エキスパンションバルブの詰まりやコンプレッサーの故障ではなく、ガス漏れが原因でした。



服部マネージャーのクルマを見せていただいたら、リレーに色々と秘密？の工夫を発見！これに関してはいずれ機会を改めて紹介しましょう。



オイルの量はディップスティックの上の切り欠きと下の切り欠きの間で約1.7ℓとなっているので、1000km走って1ℓも減っていませんでした。



これはガス漏れ検知機。ガスが漏れていると音で報せてくれます。「おっ、どうやら低圧ホース側のカシメ部分が怪しいな」



漏れをチェックするためのスプレーをつかってチェック。はっきり気泡が出るほどの漏れじゃありませんけど、まあここは交換したほうが良さそうです。

■走行距離
10月28日現在 :10万5487km

■今月の維持費
エアコンガス漏れの点検費用 :6000円
エアコンガス部品代 :1700円×5本
エアコンガス充填工賃 :3800円
エンジンフードダンパー交換工賃 :3800円
ボンネットダンパー交換工賃 :2800円

エンジンフードダンパー部品代 :SJ価格 1942円×2 (定価 4200円)
フロントフォードショック部品代 :SJ価格 3000円×2 (定価 4567円)

●消費税 :1739円
●合計 :3万6523円



いつの間にかエンジン冷却用のファンとヒーターブローをつないでいるラバー製のエアダクトが破損していました。これはすぐに交換します。



漏れをチェックするためのスプレーをつかってチェック。はっきり気泡が出るほどの漏れじゃありませんけど、まあここは交換したほうが良さそうです。

担当SHOP



ナガセ自動車

本店:新車中古車センター
名古屋市市中川区昭和橋通6-33
tel:052-361-6270
サービス工場
名古屋市市中川区昭和橋通6-33
tel:052-361-6271
飛島店
海部郡飛島村大字梅之郷字宮東9番
tel:05675-2-1300

ナガセ自動車は、三菱自動車、メルセデス・ベンツ、BMW、ボルシェなどの新車・中古車販売と自動車修理、自動車保険、板金、塗装など様々な商品とサービスを提供しているプロショップ。国道1号線を名古屋方面から蟹江方面に向かい、庄内川約2km手前の国道線沿いの北側。「ナガセ自動車」の大きな看板が目印。サービス工場は一本北側の道沿いにある。